

令和3年度 さいたま市立神田小学校 自己評価書

校長 高崎 芳和

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学習規律・学習ルールの確立を図り、新さいたま市の授業づくり（H28.5さいたま市教育委員会）を基に授業改善、指導方法の工夫に努め、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わえる授業を展開する。
- (2) いじめ・不登校ゼロを目指し、積極的で繊細な生徒指導、教育相談を組織的に展開することにより、安全、安心な学校づくりを行う。
- (3) 計画的な学校業務改善を行うことにより、全教職員が健康で生き生きとやりがいを持ち能力を発揮し、自ら学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。
- (4) 教員の授業力の向上を図るため、校内研修の充実に努め、研究授業を中心とした相互の授業参観を積極的に実施する。
- (5) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら体験活動や学校行事を実施する。

2 評価結果について

- ・「先生の授業はわかりやすい」について、肯定的に回答した児童の割合は低学年97%、中学年97%、高学年100%であった。また、「学校は学習の基礎基本に重点を置き、指導の充実を図っている」と肯定的に回答した保護者の割合は97%であった。以上の結果から本校は「分かる・楽しい」授業の実践が着実に展開されているものと考えられる。
- ・「困ったことがあったら先生や友達に相談している」と肯定的に回答した児童の割合は、低学年75%、中学年76%、高学年81%と数値的には高くはない。高くない理由としては、質問文の対象にない保護者が児童の気持ちに寄り添い、相談に乗っていることが考えられる。
- ・従来は、生徒指導部会、教育相談部会、特別支援教育部会、保健部会を別々の部会で実施していたが、すこやか委員会として全教職員で、児童への対応を検討する場を設けたことにより、共通理解・共通行動を図った。
- ・「在校時間を意識して働くことができた」と肯定的に回答した教職員は91%と昨年よりも9%減少したが、昨年度から月1～2回のペースで実施している定時退勤日が定着してきており、教職員が働き方を意識するようになってきている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・高学年における教科担任制を充実させるとともに、タブレット端末の効果的な活用を行い、学力の向上を図っていく。また、板書やノート指導、まとめや学習感想の位置付けなど、教職員が共通意識をもって学習指導に取り組み、指導力の向上を目指す。
- ・生徒指導、教育相談においても、中堅教員と若手教員との連携を密にし、学び合いながら教師力の向上を図ることができるよう、学年構成、校務分掌を工夫していく。
- ・潤いの時間、グローバル・スタディの充実を図り、コミュニケーション能力の育成を目指す。